

「今月の1枚」

ニホンアナグマ（イタチ科） *Meles anakuma*

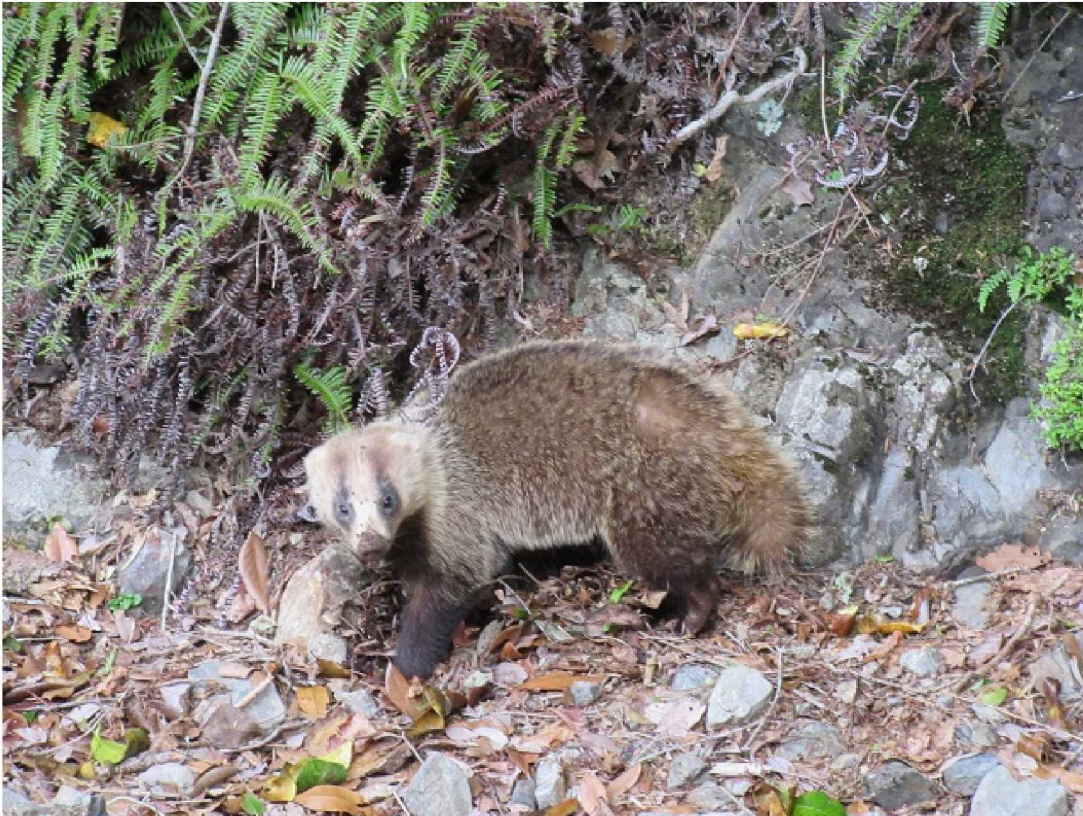


写真 1

日本固有種で、本州、四国、九州の平地から高山の森林まで広く分布している。地方によって、ムジナ、ササグマ、マミなど、呼び名が異なり、またタヌキとの区別が明確ではない。いわゆる「タヌキ鍋」や「タヌキの脂」は実はアナグマの場合が多い。

大きさはタヌキと同じくらいだが、やや平べったい頑丈な体つき、太くて短い四肢と長く鋭いツメなどは、地中に巣穴を掘る生活に適応している。

雑食で、昆虫、カタツムリ、カエル、モグラ、果実など、手に入るものは何でも食べ、特にミミズは重要な食物らしい。晩秋には丸々と太って、気温が下がると冬ごもりに入る。おおむね巣穴で眠っているが、完全な冬眠ではなく、暖かい日中は巣穴から出てくることもある。

警戒心があまり強くなく、動作も比較的緩慢で、山中や道路端で餌探しをしているところに出くわすと、人間にはお構いなく平気で餌探しを続けていることがある。一方で、気性は荒く、怒らせると後へは引かず、猟犬にも激しく反撃する。

写真：酒井 敦 文：奥村栄朗 2016年5月20日高知県馬路村で撮影

(No.261 2016.8.1 掲載)